

## 日本教育心理学会 論文作成の手引き

本手引きは『教育心理学研究』執筆要項を補い、原稿記述の詳細について説明したものです。本手引きに説明のない事項については、『日本心理学会 執筆・投稿の手びき（2015年改訂版）』（日本心理学会のホームページからダウンロードできる。以下、「日本心理学会手びき」とする。）の第3章「心理学研究」の投稿原稿の作り方」の3.3節「本文」以降を参照してください。なお、「日本心理学会手びき」と異なる箇所や同手びきには記載のない事項については、該当の項目の末尾に（※）を付けてあります。これらについては、本手引きに従ってください。

### 1. 論文題目

- （1）副題がある場合は、副題の前後を2倍ダッシュ（——）ではさむ。
- （2）題目の英訳は、主要語の頭文字を大文字とする。

### 2. 見出し

- （1）見出しには、番号は付けない。
- （2）中央大見出しは、行の中央におき、その上下は1行あける。
- （3）横大見出しは、行をあけず左端から書き、本文は改行して始める。（※）
- （4）横小見出しは、行をあけず左端から全角1字あけて書き、本文は全角1字あけて書く。

### 3. 本文の文字・句読点

- （1）統計量を表す記号はイタリック体とする。
- （2）句読点は「、」と「。」を用いる。

### 4. 図表

- （1）表の題は、表の上に、「Table 1 ○○尺度の項目得点の平均」のように、表番号の後にピリオドを付けず、全角1字あけて書く。（※）
- （2）表中の見出しと数値は中央そろえとし、表の左端の項目は左そろえとする。
- （3）表中の数字が、比率や相関係数のように（絶対値が）1を超える値をとらないものである場合、1の位の0を付けずに、小数点と小数点以下の数字のみを書く。
- （4）表の注は表の下に左寄せでおき、説明文の終わりには句点（。）を付ける。ただし、説明が文でなく、短い語句のときは句点は付けない。
- （5）表全体に関する注は、表中には符号を付けず、「注」（複数の場合は番号も付ける）

と書いてその後に書く。

- (6) 表中の特定の部分に関する注は、表中の該当箇所に符号を上付きのアルファベット小文字で付け、その符号ごとに説明する。
- (7) 表や図で統計的な有意水準を示すには、数値の右肩に上付きの「\*」や「\*\*」を付け、表の下に左寄せで、「\* $p < .05$  \*\* $p < .01$ 」のようにコンマやピリオドを入れず、スペースをあけて並べる。(※)
- (8) 図を図作成ソフトウェアで作成した場合、不要な色や線があればそれを除去して、印刷に適したシンプルなものにする。
- (9) 図の題は、図の下に、「Figure 1 ○○尺度の平均得点の学年間の変化」のように、図番号の後にピリオドを付けず、全角1字あけて書き、最後も句点(。)は付けない。(※)
- (10) 図の注は、上記(4)～(6)の表の注に準じる。

## 5. 結果の表記

- (1) 信頼区間は、95%CI[0.3, 1.2]のように表記する。(※)

## 6. 文献の引用

- (1) 著者が2名の場合、3～5名の場合、6名以上の場合の書き方は「日本心理学会手びき」の3.6.1「文献の引用」の(3)「共著(著者2名)」, (4)「共著(著者が3-5名)」, (5)「共著(著者が6名以上)」にそれぞれ従う。ただし、省略表記することによって、異なる著者の組が刊行年を含めても同じ表記になる場合は、第1著者から順に区別をつけるのに必要な数の著者名を書く。(※)
- (2) 翻訳書を引用する場合は、原著者名と原著書の刊行年、および翻訳書の翻訳者名とその刊行年を示す。その書き方は「日本心理学会手びき」の3.6.1「文献の引用」の(6)「翻訳書の引用」に従う。
- (3) 同一箇所でも複数の文献を引用するときの順番およびその書き方は「日本心理学会手びき」の3.6.1「文献の引用」の(7)「文献引用の順序」に従う。

## 7. 引用文献

- (1) 引用文献欄の見出しは、論文の種別によらず、「引用文献」とし、中央大見出しとする。(※)
- (2) 引用文献の2行目以降は、全角1字分下げる。(※)
- (3) 引用文献の副題は、日本語文献の場合は1倍ダッシュ(—)の後に続け、副題の後にはダッシュをつけない。外国語文献の場合は半角のコロンの後に半角あけて続ける。(※)

- (4) 句読点は半角のコンマと半角のピリオドとし、最後の句読点を除き、句読点の後は半角あける。(※)
- (5) かっことは半角とし、右かっこの後に句読点を付ける場合以外は、かっこの前後を半角あける。
- (6) 印刷中の論文は、刊行年の箇所に「(印刷中)」と明記し、投稿中の論文は、末尾に「(投稿中)」と明記する。投稿中の論文については投稿先の雑誌名は書かない。(※)
- (7) 日本語文献の著者名の姓と名の間は、姓または名（両方の場合を含む）が 1 文字である場合に限り、半角あける。(※)
- (8) 日本語文献が共著の場合、各著者名の間には全角のナカグロ（・）を入れる。
- (9) その他については、「日本心理学会手びき」の 3.9「引用文献」の説明に従う。
- (10) 特に以下の点には留意すること。
  - a) これまで日本語文献について可能な範囲で英語表記を併記することとしていたが、今後は併記しない。(2016年3月19日の『教育心理学研究』常任編集委員会で決定)
  - b) 逐次刊行物の巻数は、これまでボールド体であったが、今後はイタリック体とする。(2016年3月19日の『教育心理学研究』常任編集委員会で決定)
  - c) 外国語の論文題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにはしない。
  - d) 外国語の雑誌名は、主要語の頭文字を大文字とし、イタリックにする。
  - e) 外国語の書籍題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにする。
  - f) 日本語文献と外国語文献をまとめて、著者のアルファベット順に並べる。
  - g) 翻訳書には原著者名と原著書の刊行年も明記する。
  - h) 本文で引用した文献がすべて引用文献欄にあるか、また、引用文献欄の文献をすべて本文で引用しているかを確認する。
  - i) DOI (digital object identifier) が付されている文献は、末尾に“doi:xxx”の形式でDOIを含める。(※) (例: doi:10.5926/jjep.64.445)

## 8. 付記

- (1) 研究助成や謝辞等の追記は「付記」という見出しに統一し、「謝辞」等の他の見出しは用いない。(※)
- (2) 「付記」の中に研究助成や謝辞を含める場合は、論文が採択された後、最終稿提出の時点で記載することとし、投稿時には一切記載しない。(※)

以上